



血清中の酵素活性測定標準化の推進に関する指針

- 指針Ⅰ 日本臨床化学会常用基準法 (JSCC常用基準法)
 指針Ⅱ 日本臨床化学会勧告法 (JSCC勧告法) 準拠試薬
 指針Ⅲ 酵素項目の外部精度管理

(1993-3-31)

日本臨床化学会
酵素専門委員会血清中の酵素活性測定標準化の
推進に関する指針の公表にあたって

JSCC酵素専門委員会は、酵素活性測定の標準化をさらに推進するために、1991年初めに酵素標準化推進小委員会を発足させた。小委員会は、勧告法公表後のさまざまな要望に対して、酵素専門委員会として対応するべきことを整理し、また、必要と考えられる指針をまとめることにより酵素の標準化を推進することを目的としている。今回、小委員会は1992年度の日本臨床化学会酵素専門委員会のプロジェクトとして、標準化の推進に必要な指針を検討する活動を行った。

この報告書は、当プロジェクトで検討した標準化のための指針を酵素専門委員会で審議し、理事会の承認をえたうえで公表するものである。

プロジェクト「酵素活性測定標準化の推進」メンバー

委員長：亀井幸子（東京医科歯科大学医学部）
 委員：菅野剛史（浜松医科大学）、片山善章（国立循環器病センター）、河野均也（日本大学医学部）、松尾雄志（オリエンタル酵母工業株式会社）、中野尚美（銀杏学園短期大学）、中山年正（虎の門病院）、塚田 裕（株式会社エスアールエル）、伊藤 啓（北里大学衛生学部）

指針Ⅰ 日本臨床化学会常用基準法 (JSCC常用基準法)

一 勧告法温度/測定温度/報告温度の整合性を得るための指針 一

1. 日本臨床化学会常用基準法 (JSCC常用基準法) が生まれた背景

(1) 日本臨床化学会勧告法 (JSCC勧告法)

日本臨床化学会 (JSCC: Japanese Society of Clinical Chemistry) は、ヒト血清中の酵素活性測定について reference method に相当する

注: JSCC勧告法, JSCC常用基準法の普遍性については、酵素専門委員会の酵素標準化推進小委員会で検討し、1992年の日本臨床化学会への報告書および日本医師会への答申に記載した。

JSCC 勧告法を定め、これを共通の「ものさし」として標準化を行う方針をたてた。1989年8月30日に、まず、AST (aspartate aminotransferase), ALT (alanine aminotransferase), CK (creatin kinase), ALP (alkaline phosphatase), LD (lactate dehydrogenase) 5項目の勧告法本文および解説書を公表した^{1,2)}。この5項目に続いて CHE (cholinesterase) および AA (arylamidase) 測定に関する勧告法の検討を継続しており、さらに γ GT (γ -glutamyltransferase) 測定に関する